

ドッヂビー

ドッヂビーってどんなスポーツ？

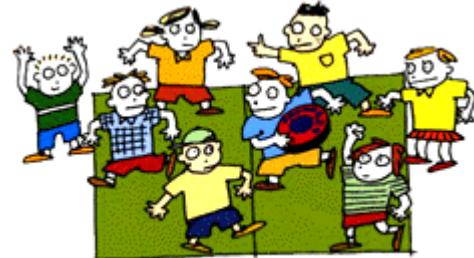
ドッヂビーは、ウレタン製のディスク『ドッヂビー』を使った、ドッジボール形式のゲームです。ドッヂビーは、とても安全で、当たってもケガをしないし、痛くもありません。しかし、スピードスローもカーブスローも自在にできます。ルールは、ドッジボールと一緒にとても簡単なスポーツです。

基本的なルール

1 用具

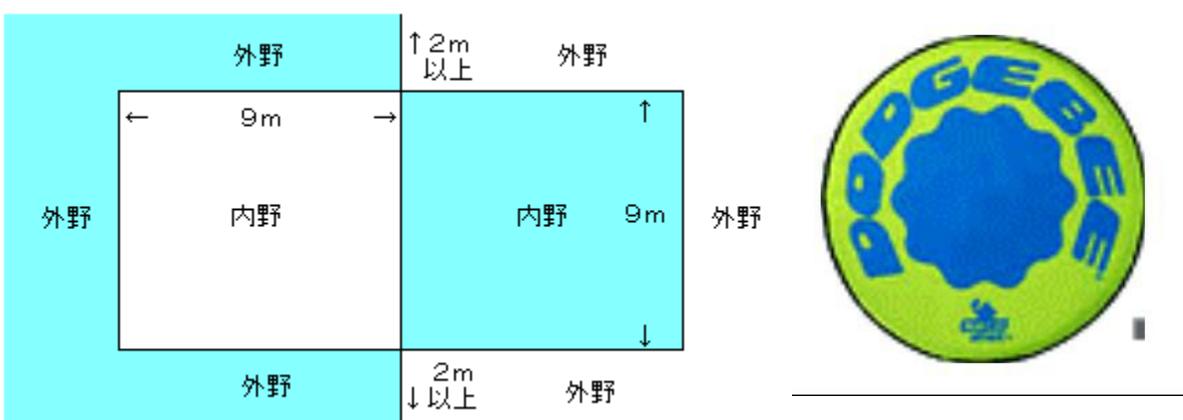
(1)ドッヂビー

(2)ユニホームまたはゼッケン(1~15番)



2 コート

コートの大きさは下図のとおり。(センターライン延長2m以上)



※1外野外枠の制限は無し。 ※2バレーボールコートと同じ広さ。

3 プレーヤー人数

1ゲームに出場するプレーヤーは1チーム13名とし、ゲーム途中のプレーヤー交代はできません。ただし14名以上を登録したチームで、ケガやその他の理由により、審判がプレー続行不可能と判断した場合は、交代のプレーヤーを出場させることができます。また、ゲームごとにプレーヤーを入れ替えることができます。

4 ゲーム時間 1ゲームの時間は15分とします。

5 勝敗の決定

時間内に相手の内野に1人もプレーヤーが残っていない状態にするか、または、ゲーム時間経過後、より多くのプレーヤーの残っているチームが勝者となります。内野に残っているプレーヤー人数が両チーム同数の場合は、引き分けとするか、または延長戦を行います。延長戦を行う場合には、その方法を大会ごとに主催者が決定し、あらかじめ参加チームに知らせることとします。

6 ゲームの進め方

(1)内野・外野の配置

ゲーム開始前に、各チームは内野・外野それぞれの配置人数を決めておく。配置人数は自由だが、内・外野ともに1名以上配置しなければならない。外野は、縦方向及び横方向(左右)のどこに何人配置してもかまいません。

(2)ゲームの開始(フリップ)

両チームの代表者がジャンケンをして、負けた代表者がディスクをフリップ(コイン投げのようにディスクを回転させながら空中に投げ出す)します。ジャンケンに勝った代表者は、そのディスクが空中にあるときに、ディスクのどちらの面が上になつて地面に止まるかを推測し、「おもて」または「うら」のコールをします。そのコールが当たった場合は、そのチームがゲーム開始時の自陣コートかディスクの所有権かのどちらかを選びます。外れた場合は相手チームが選択権を得る。

(3)ディスクのスロー(スローワー)ディスクを投げるプレーヤーをスローワーと呼び ディスクをキャッチしたプレーヤーは、自動的にスローワーとなります。スローワーはキャッチ後5秒以内にディスクを投げなければいけません。

(4)ディスクをキャッチするとは、以下の状態をいいます。

①片手または両手でディスクをつかんでいる状態。

②両手でディスクをはさんでいる状態。

＜注＞ひざや腕でディスクをはさんでいる状態は、キャッチしたことになりません。
またこれらについては、空中にいるプレーヤーも同じです。

(5)アウトとなる場合

内野プレーヤーは相手チームのプレーヤーがノーバウンドで投げたディスクにより、以下の場合アウトとなり速やかに外野に移動しなければなりません。

①ディスクをキャッチできずに、ディスクが身体、ユニホーム、その他身につけている物に触れた後、地面に落ちるか触った時。

②ディスクをキャッチできずにディスクが身体、ユニホーム、その他身につけている物に触れた後、相手プレーヤーにキャッチされるか触れられた時。

＜注＞上記①、②について、1回のスローで、同一チームの内野プレーヤーが連続でディスクに触れた場合は、それらのプレーヤー全てがアウトとなります。

(6)アウトとならない場合

内野プレーヤーは(5)の①、②の状態でも、以下の場合アウトにならない。

①内野プレーヤーが、一度取り損ねたディスクを、ノーバウンドでファールなく味方のプレーヤーがキャッチした時。

②相手チームのスローワーが、スローの時ファールをしていた時。

(7)内野へ入る権利

外野プレーヤーは相手チームの内野プレーヤーをアウトにすることにより、自分の内野に入ることができます。元外野(プレー開始時に外野にいるプレーヤー)も同様に、相手の内野プレーヤーをアウトにすれば内野に入ることができます。